

2022年度 第1回東近江市環境審議会報告【概要版】

◆開催日時

令和4年（2022年）10月4日（火）午前10時～午後0時5分

◆開催場所

東近江市役所 314、315 会議室

◆東近江市環境審議会委員（敬称略、順不同）

出席者

仁連 孝昭、山崎 亨、藤井 絢子、藤岡 康弘、浅見 正人、金 再奎、向 真史、
足立 進、植田 すゑ子、猪田 道代、小西 恵美子、綾 康典、吉居 崇司

欠席者

野間 直彦、水野 扶美、熊倉 弘富美

◆事務局

市民環境部 次長 五十子 成子

環境政策課 課長 西 直樹、課長補佐 福永 聡、係長 小久保彩子、
係長 村井 明生、主任 竹中 壽人、主任 高橋 寛行

廃棄物対策課 参事 福田 均

企画部森と水政策課 課長 丸橋 裕一

文化スポーツ部能登川博物館 館長 杉浦 隆支

◆傍聴者 1名

◆議 事

- 1 開会
- 2 自己紹介
- 3 会長、副会長の選出
- 4 会長あいさつ
- 5 議 事
 - (1)第2次環境基本計画の中間見直しについて
 - (2)排水基準の一部改正について
- 6 閉 会

◆議 事 (1)第2次東近江市環境基本計画の進捗管理について

- ・東近江市環境基本計画について(資料1) 環境政策課環境政策係長
- ・第2次東近江市環境基本計画の進捗管理について(資料2)
- ・能登川博物館の取組報告(資料3) 能登川博物館館長

◆審議会意見

【CO2関連】

- ・CO2の排出状況のところ、農業部門、農林業の数字がおかしいと思う。1990年度は29.7、2013、14、15年かなり減ったが16年度からまた増えている。この数字の動きがおかしい感じがする。
- ・(CO2の排出状況の)県全体がそうなので、計算の方法が変わったかもしれない。

【エコケアライフ関連】

- ・BDFが動いていて、建築業の話ありますが、航空業界では欧米が早くからバイオ燃料入れないと着陸も認めないというような方向になっていて、日本の廃食油が良質で世界の取り合いになっている。東近江市内の廃食油の賦存量を調べて廃食油の回収の仕組みを2050ネットゼロに向けて準備してほしい。
- ・もみ殻くん炭は今までは、土壌の改良材ということで16年間菜の花館でやってきているが、このIPCCで認められてから、森林と比べて土壌の炭素貯留量が非常に大きな評価がされている。進んでるところではもみ殻くん炭を含めて炭素を土壌に入れて作った野菜は、CO2を削減するというので評価が全く違う。世の中本当に変わっているの、その見せ方をかなり腰入れてしなければいけないのではないか。もみ殻くん炭も足りない。東近江市全体のもみ殻はどうなっているのか、これもぜひ、廃食油と同時にもみ殻の賦存量を調査していただけるとありがたい、

【生物多様性関連】

- ・生物多様性は、世界的に重点課題で、生物多様性の再生・保全を図っていくためには、市として何が必要なのか、どういう戦略を持っていくのかをやらないと駄目だと思う。そのためには何をしなければならないのかというところを、欠けている面はプロジェクトを作るなりして検討していただきたい。
- ・これまで個々の種を対象に多様性問題にしてきたが、今はエコスケープごとの種の多様性を問題するようになってきてる。東近江市の場合は、上流から琵琶湖までつながった一つの市で、それぞれのエコスケープごとに多様性がどれだけ前へ進んだのか。森林地域、水辺の地域、琵琶湖岸の地域でどうなのかというような、エコスケープごとの視点が必要。

【愛知川関連】

- ・愛知川の濁りは、半月以上続いている。これは、鈴鹿で大雨が降って、それ以降ずっと続いているが、この濁りが根本的なものかと言われると、残念ながら永源寺ダムの上流はもう清流になってる。やはりダムの問題が大きいと私は指摘をしてきたが、今、国は永源寺

ダムにバイパスを造ろうという計画をされている。ぜひこの愛知川の濁りの問題、県や国に意見を言っていたきたい。

- ・高時川もずっと濁水が消えてない。県の中に濁水を調査する今までの方法も手法もそれからお金も人も投入出来ないということで、たまたま村田製作所の野洲の事業所の分析と開発のところへ今つないでる。高時の場合は、シカの害が続いて森林の破壊が進んでいる。それとそこにもものすごい風力発電の計画があって、やはり森、森林域とそれからシカの問題と、それから今この濁水の調査が出来ていないこともあるので、ぜひ藤岡先生の力をいろいろな川のところにもアドバイスいただけたらと思う。
- ・高時川の濁りに関しては、主には森林の開発の観点から、既に山での開発済みの事業所に対して指導をして継続指導という流れで調査して、状況把握させてもらっていたが、発生原因がなかなか掴みにくく解決が難しい。新たな開発計画も最近ある中で、今後どうしていくか今非常に大きな議論になってるとは聞いている。
- ・愛知川ダムの関係で、シカ害とかが出ると粒の細かいのが多くなるんで、まず出さないようにしなきゃいけないということが研究成果で見えてきた。バイパスでもし流して産卵用の小さい石がウワッと流れてというのが一番都合いいが、本当にちゃんと流れるのか治水の面の話がある。治水に対して今までは溢れないように止めてしっかりと押さえてっていうことが、一つの常識だったが、自然の中で水がある程度増減する中で、土砂が下流まで流れたり、ある程度水位が上がっても緩衝帯も使いながら、治水をさばいて、なおかつ生き物にもすみかを残していくというような新しい視点を、まずは今研究してもらっている。あとはもう一つカギになるのが、そういう研究成果もありながらこういうやり方だったらそこまでしなくても溢れない、なおかつ流せば生き物にもいいという方法があることを皆さんに知ってもらわないといけない。積極的に我々行政の立場でやりつつ、市民の方々に一緒に最新のことを理解してもらおうという、多分その両輪でやっていくことで変えていけるんじゃないかと思ってやっている現在進行形ということである。

【評価、進捗関連】

- ・14 ページの資源循環型の食とエネルギーのところ、いろんな動きがあると評価があるが緑線の横線である経済の評価もかなりパイとしては大きいので、非常に目立つ。
回答→取組数で見ての矢印になっている。(取組数が1⇒2)
- ・重点プロジェクトはあるが、個々ばらばらにあるでなく結構つながりがある。それぞれ、つながりがあって相乗効果と言われたが、どれを前に進めると、他の課題がまた前に進んでいくのかとか、その辺の分析がかなり大事なと思う。取組の増減だけの評価でなく、もう少し体系的な評価が要るのではないかと思う。
- ・15 ページの関係図を定性的に書いてはいるが、本当はこの中の代表的な取組を23個選び、その間の関係性を定量的にしてネットワーク図を書いた上で、最初はやろうとしてたが毎年やるのは大変なので、そこまではやらなくてこういう簡略化しましょうかという経緯がある。14 ページも、1個1個の取組を見ると細かいが、市全体でどういう感じになってるのかということだと思うが、今回は1個1個を積み上げた上で、全体的に見るのは環境・

経済・社会で見ましようということとした。その中で荒っぽいというのも承知の上で、CO2削減とか、地域で回るお金とか、つながっている時間という、そういう代表性を持ったものでしている。

- 環境・経済・社会で数字が出ているが、この数字のオーダーが、どのぐらいのものなのか、その比べる数字が載ってないから、全体の評価は難しい。
- それは、環境基本計画の将来像の中に、目標値が書いてある。資料づくりのミスである。
- 環境というのは環境だけでは回っていかない、経済や教育や、社会の、そういう連携が最も大切。その意味で、経済部局や教育部局、農業部局と、この計画の実効性を高めるための連携を強めていただきたい。環境部局だけではやっぱり物事は進んでいかないと思うので、その辺の連携がこういうように進んだよと、その辺もぜひ今後報告をお願いしたい。

◆議 事 (2)環境調査について

・環境調査のまとめ(資料4)

環境政策課環境保全係長

◆審議会意見

- 事前にお配りいただいた環境調査のまとめの中で、川の水質の調査で若干気になったことと情報提供がある。9ページの中ほど表の下に、調査結果で全体のまとめをされている中で、環境基準に当てはめてBODと大腸菌がぼこぼこ基準を超えているという表現がある。県のほうも調査しているが、環境基準基本的に満足をしている。昔県で環境基準の調査を委託して、場排水の分析をしてる容器そのまま使って洗い方が甘くてげたはいたことがあった。げたはいたって数字が一律1とか上がってたっていうことで、ちょっと委託業者さんの分析方法を少し精査されたらどうか。大腸菌について、この方法昔から測り方がよくないんじゃないかってずっと言われていて、最近変わりました。環境基準変わって新しい基準のやり方に切替えていけば、もっと正しい汚染っていう意味での評価が出来るんじゃないか。今後の調査委託に当たっての参考にされたらどうかと思う。
- 附票の13ですが、長峰1号貯水系流入河川の値が他よりかなり高い。この基準値を超えるかどうか確認してませんが、ほかよりかなり高いんでちょっと気になったんですが、これ特別なところなのか、何かの有機物、かなり排水が流れ込んでいるのか。
回答→ほかと比べると高いが、この地域での数字が大きく変化がなかったので、ただ今御指摘いただいたので、今後、状況を見ながら確認させていただく。

以上